

各務原市内寺院誌 (その一)

各務原市内寺院簿

(その一)



※十六	高家寺	臨濟宗	(新加納町)	一
※十五	大願寺	曹洞宗	(北洞町)	八
※十四	成徳寺	法相宗	(雄飛が丘町)	一六
※十三	大信寺	淨土真宗	(新加納町)	廿一
※十二	佛光寺	臨濟宗	(新加納町)	廿七
※十一	不動寺	臨濟宗	(新加納町)	三二
※十	覺王寺	臨濟宗	(新加納町)	三八
※九	正藏寺	臨濟宗	(新加納町)	四六
※八	法藏寺	淨土真宗	(西市場町)	四一
※七	濟緑禪寺	臨濟宗	(前野町)	四六
※六	瑞眼禪寺	臨濟宗	(前野町)	三二
※五	法光寺	臨濟宗	(前野町)	三二
※四	善休寺	淨土真宗	(新加納町)	廿七
※三	薬師寺	法相宗	(雄飛が丘町)	一六
※二	瑞巖寺	曹洞宗	(北洞町)	八
※一	少林禪寺	臨濟宗	(新加納町)	一

一 那加地区寺院「取材順」

目次

(ページ)

那加地区寺院簿の作成に当っては、もともと各務原市が将来市内の寺院簿の出版をするという話もあって、歴史サークルが編集に協力することから出発したものである。すでに近隣の江南市などでは、市が寺院簿を出版していて、寺院の案内などにも大きな効果を上げている。

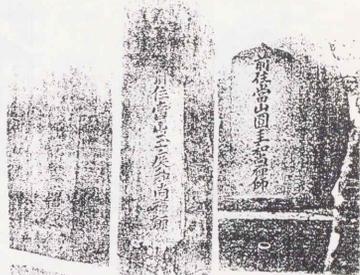
しかし当初は意欲的であつた関係当局も、市内に航空博物館等が建築されるに及んで、大きな借入金金の負債もあり、他の市町村には立派な歴史民族資料館さえ完備しているのに、当市は資料館さえもバラツクの状態である。従つて資料は収集しても、とうてい協力を得るのは至難となつた。かつて、当市には歴史の大御所「小林義徳先生」が居られて、その指導のもとに発足した夢も、このままでは挫折せざるを得ない。せめて収集した資料を残す意味もあって、ここにコピーによる寺暦簿をまとめることにした。干支その他については、正確に歴史年表から付加した。

この編集に当っては、各寺院の協力もあつたことを感謝するとともに、とくに、那加地区寺院をお尋ねするについては、サークルの坂井田勲氏の協力があつたことを感謝したい。

正確なものにする為、何度も訪れご迷惑を掛けましたが、快く応対して頂いた寺院が殆どで、その目的を達することもできた。しかし、残念なことにほんのごく一部の寺院当事者からは、全く協力を得ることができなかった。歴史のある寺院だが、こちらが悪意で訪れているかのような応対には、宗教の脱く人間性とは何ぞや、と考えさせられ勉強にもなつた。

※指導・足立秀成、編集者・小野木昌、坂井田勲。

(各務原市歴史サークル)



五世圓圭義端禪師
四月二十三日寂。七五二）年

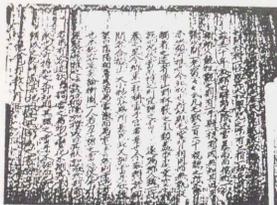
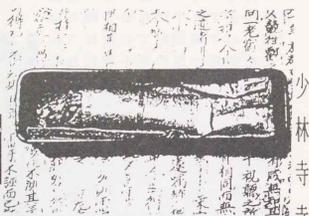
六世玉庭義線禪師。
宝曆十四甲申（一七六四）年
三月五日寂。

七世乳峯玄慈禪師。
天明四甲辰（一七八四）年
十月二十三日寂。

他、歴代和尚の碑。
少林寺領内には、中興二世の體道禪師以下、七景淵弘道の體道禪師の石碑が、一か所に整理された。近年までは、竹林にまつい、近き養はれて、竹にまわられた中、供養され、環境下、山に吹山を、西方に好環境下に供養

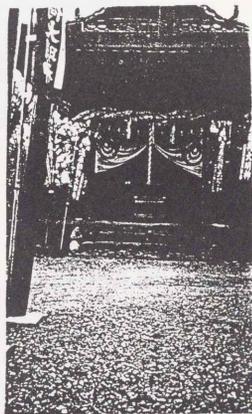
少林寺 宝雷神の手と雷手記

一伝説では寛文十一（一六七一）年六月十八日、雷鳴り響かき雲一つ（一六七一）年六月十八日、雷神は倒れた新加納東方の雨宮の地に落雷。天地がまじり、天が養を少林寺の下の手に落とされた。祀り、晴、雷鳴、一、翌年の同月同日になつて、子の雷神が道和尚に相見え、報恩を感謝。親の雷神が道和尚に相見え、報恩を感謝。うは、災害を除く、と約束して昇天したとい



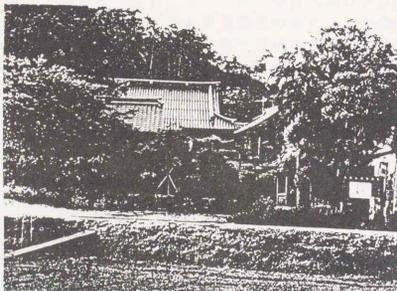
雷手記
より、享保二十年乙卯八月の手記は、先の伝説の年、より、六十五年後の一七三五年に書かれたものであり、雷手記の内容は、伝説とは聊か異なっている。尾記の内容は、驟雨、各務郡新加納邑の居民今尾氏の家奴が、驟雨、各務郡新加納邑の居民三指と一物の親の大きさは、嬰兒の手の如し、七日付に、四月に、一年六月十八日は、新暦では

少林寺の鎮守稲荷堂

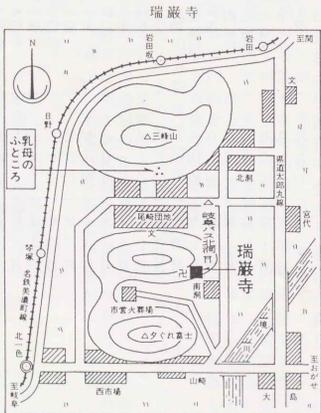


てこへつやは山れ再
 の行つ寺、一掛へあて三
 時つてに中門けて今賊あは
 に夜の仙前のの夜はと和
 相夢たつ道の和の目的尚
 出来談せよとへ稲荷が不動の姿
 稲荷堂は、湧川と、少林寺とよく
 門前に現在も由緒を伝えてい
 る。市の文化財にも指定され

北洞山瑞巖寺



■各務原市那加北洞町一(三二五)
 岐阜乗り合いバス北洞下車(瑞巖寺)
 T E L . 〇五八三(八三)三七一五



現場見取図

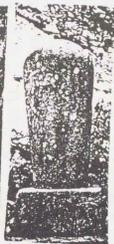
並本開開宗任
 びに尊基山派職
 諸
 仏

(非現 即雲寺一物行和の 事務)
 曹洞宗
 天桂水澤和尙
 松平丹波守光重(法命・光重寺殿別峰道見大居士)
 根迦牟尼仏守光重(製作者・製作年不詳)
 十一面觀世音菩薩(製作者・製作年不詳)
 弘法大師。(製作者等不詳)



開山天桂水澤元祿
大和尚
八年(一六九四)

寂



二道澤秀大
大和尚
五年(一七〇八)

寂



三藍如玉正德
大和尚
六年(一七一六)

寂



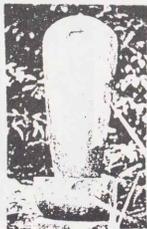
五仙耕牛安永
大和尚
二年(一七七三)

寂



八翽雲秀政
大和尚
三年(一七九六)

寂



十融山大文化
大和尚
十年(一八〇九)

寂



十一関重牧文
大和尚
五年(一八一二)

寂



開山・宝

天桂永澤大和尚の
尊像掛け軸・
(延宝六年、和
尚六十一才の肖像)
・咸亨は一六七八年。



二十世
玉光雲大和尚
昭和乙卯五十年(一九七五)
四月二十六日 寂



十九世
玉山蘇堂大和尚
大正癸亥十二年(一九二三)
十月二十日 寂



十八世
玉林惠雲大和尚
明治癸寅二十三年(一八九〇)
五月四日 寂



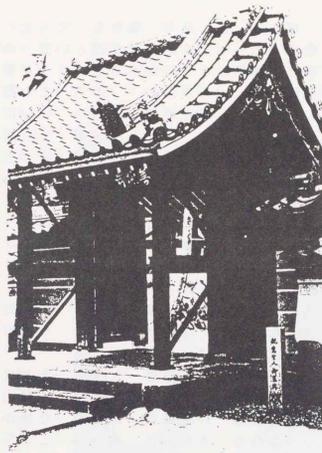
十七世
明天惠海大和尚
明治辛巳十四年(一八八一)
八月四日 寂



十五世
涵水曹源大和尚
天保甲辰十五年(一八四四)
七月二十六日 寂

遇光山善休寺

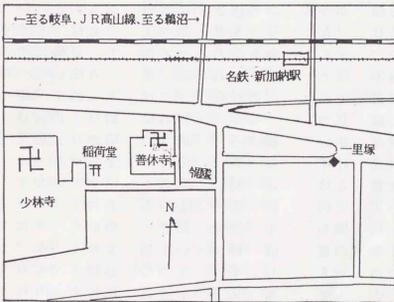
■ 各務原市那加納町二一七
 T 南へ徒歩五分
 E L 〇七八三（八二）一〇八二



遇光山善休寺

住宗開本
 並に諸
 び尊基山派職
 諸諸
 仏

嘉久見謙祐住職
 浄土真宗（東本願時）
 念願法師（浄土真宗改宗一世）
 念願法師
 念願法師
 阿彌如來（慈運如上大師・恵心僧都作の伝あり）
 親鸞聖人



現場見取図

當初 け
 寺風 二
 代化 三
 代代 四
 代代 五
 代代 六
 代代 七
 代代 八
 代代 九
 代代 十
 代代 十一
 代代 十二
 代代 十三
 代代 十四
 代代 十五
 代代 十六
 代代 十七
 代代 十八
 代代 十九
 代代 二十
 代代 二十一
 代代 二十二
 代代 二十三
 代代 二十四
 代代 二十五
 代代 二十六
 代代 二十七
 代代 二十八
 代代 二十九
 代代 三十
 代代 三十一
 代代 三十二
 代代 三十三
 代代 三十四
 代代 三十五
 代代 三十六
 代代 三十七
 代代 三十八
 代代 三十九
 代代 四十
 代代 四十一
 代代 四十二
 代代 四十三
 代代 四十四
 代代 四十五
 代代 四十六
 代代 四十七
 代代 四十八
 代代 四十九
 代代 五十

職住
 ありにつ
 りにつ
 いては、
 加工岩の
 墓誌に刻
 まれた住
 職銘が酸
 性雨の影
 響をう
 け、改宗
 一代

明治廿四年辛卯（一八九一）年十月廿八日

書下之事

一 田舎由緒有之今般 御祈願所
 二 般速化 御付以依之
 一 御法衣 一 御使意花 一 御幕
 一 御盤巻 一 御托灯
 一 御用物 御寄附物 御有之御間
 一 御相承 御承之御友 御相控
 一 御相承 御承之御友 御相控
 一 御相承 御承之御友 御相控

本光院宮
 御役所
 善休寺江
 御付以依之
 御相承 御承之御友 御相控

田舎由緒有之今般 御祈願所
 般速化 御付以依之
 御法衣 御使意花 御幕
 御盤巻 御托灯
 御用物 御寄附物 御有之御間
 御相承 御承之御友 御相控
 御相承 御承之御友 御相控
 御相承 御承之御友 御相控

御書下 2

御書下 2

書下

一 宮殿前江為敬祈願所
 二 寄附物 御承之御友 御相控
 三 御相承 御承之御友 御相控

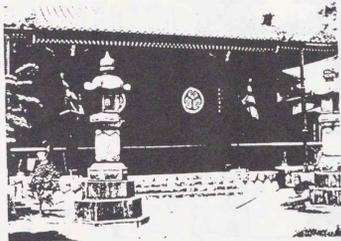
御役所
 善休寺江
 御付以依之
 御相承 御承之御友 御相控

田舎由緒有之今般 御祈願所
 般速化 御付以依之
 御法衣 御使意花 御幕
 御盤巻 御托灯
 御用物 御寄附物 御有之御間
 御相承 御承之御友 御相控
 御相承 御承之御友 御相控
 御相承 御承之御友 御相控

御書下 3

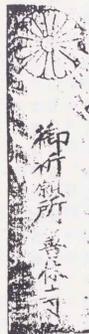
御書下 3

本光院宮
 御祈願所
 善休寺江
 御付以依之
 御相承 御承之御友 御相控



本光院宮御印鑑

由緒を物語る本堂



御祈願所木札
 菊花紋入

御書下

田舎由緒有之今般 御祈願所
 般速化 御付以依之
 御法衣 御使意花 御幕
 御盤巻 御托灯
 御用物 御寄附物 御有之御間
 御相承 御承之御友 御相控
 御相承 御承之御友 御相控
 御相承 御承之御友 御相控

御役所
 善休寺江
 御付以依之
 御相承 御承之御友 御相控

田舎由緒有之今般 御祈願所
 般速化 御付以依之
 御法衣 御使意花 御幕
 御盤巻 御托灯
 御用物 御寄附物 御有之御間
 御相承 御承之御友 御相控
 御相承 御承之御友 御相控
 御相承 御承之御友 御相控

御書下 1

本光院宮藏人御書下 1

が、古い時代の法光寺三世の屋天景規和尚が、領主の坪内定長（坪内四世）と謀し、貞享三（四）年八月二十四日に至りて臨濟宗に改宗（開創となる）と議し、この衰退を嘆いた時の住職の建願により、十数年の歳月費やした天保三壬申（一八三二）年に至りて、梅尚の後安政三年（一八五〇）年八月廿七日に、寺は面目を一新して明治の泰倒つたが、本堂を地方を襲った濃尾（一）林八寄進も年なり、寺は過ぎやがて、明治の至るは、現在の本堂を再建して、現存するも、九世住持光瑠和尚の遺大被害を及ぼすや、明治の世に、古の碑は、先王堂は、参詣すること、無寂されて、先方、明治三年に寂のため、この

緑

日

＊盆地益（八月二十四日）・ ＊盆地益（九月の第一日曜日）・

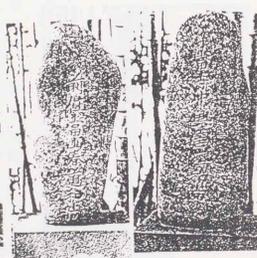
歴史和尙の墓

供養の法光寺本堂の南に面した竹林内には、かつて寺を支えてきた和尙の墓に、この屋敷の和尙の自然石に刻まれた墓石が、南面の国道二十一号背線沿いから、開山瑞泉屋天景規和尚大禪師、寛文七年（一六六七）年、



寛開山瑞泉屋天景規和尚大禪師、寛文七年（一六六七）年

寂



宝中興雪峰和尚禪師、享保四年（一七三三）年

寂



元三世春道祖和尚禪師、宝曆元年（一七六一）年

寂



寶四世琢門祖和尚禪師、天明八年（一七七八）年

寂

るとてゆきつもたにげ
 と蛙は蛙つななるこ池え新
 うができた寺り飄よのこは大量納日
 こ産きた寺へ形にの取材のの吉
 と卵なちへのゆ池面話法が昔ヒと
 で訪を踏通つ池面話を光寺てらが大祭
 れるまを路り卵ををしをらがい生は
 とい横移る竹を訪れたし息四月
 はとよ切動生竹を訪れたし息四月
 梅だうつてにのたたし雨のた
 雨つててにのたたし雨のた
 のたしくくるう俊、ま、たい
 日てくるう俊、ま、たい
 のいかとか道現たい訊日
 のらう、職職、こ、行
 一日、こ、十のの、いとわ
 で、ちう竹数話桜につにとれ
 申ろした藪匹ののよ俊、つかよるが
 し合んた場中ヒ道和中、る、神、通
 わせは車面からキと和尚、光社、称
 たよう移動合、工、年、竹、南、祭、の
 に終とうがキが、梅、そ、雨、う、あ、こ
 忽わ細、エ、本、堂、き、た、伝、説、の、起
 然、る、の、の、グ、ル、い、あ、と、決、因
 と、ま、で、注、意、を、か、す、こ、つ、小
 移動して、か、す、こ、つ、小

……げえろ（蛙）祭り異聞……



昭十
 昭和九・五年
 心西尚瑞
 申四（一）
 信和和尚
 職禪師
 年寂



明再
 昭治中興
 和三十三年
 庚子（一九〇
 一）
 大丘圭圓
 和尚
 職禪師
 年寂



明八
 明治十三年
 癸巳（一八
 七〇）
 宗育和尚
 禪師
 年寂



慶七
 明治三十七
 年甲戌（一
 九〇〇）
 泉一梅祖
 松和尚
 職禪師
 年寂

住宗開開本並
職派山基尊に
諸佛

吉田秀温尼（第十三代）
臨宗和尚心寺派
乾宝尚大（寺曆に開山第一代）
棟一叔宙和妙心（寺曆に開山第一代）
十動明王像・音弘法大師像（十五年製作者）
不十棟乾臨吉
動一叔宙和妙心寺派
明王像・音弘法大師像
（十五年製作者）



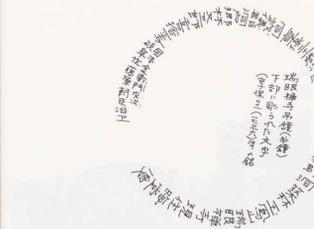
濟縁禪寺



現場見取図

高照山濟縁禪寺

■ 岐阜市那加前野畑町ノ下七
北岐阜市那加前野畑町ノ下七
Eへ徒歩五分
L歩十分
T五分
0五八三（八二）二七四〇



寺の規
時た模
の新が
加古景
地納わ
村図か
かられ
る寺地

一（一）
世鐘七
（七）
半三晦
堂鐘六
（六）
和尚當
時部鐘
のの時
、の、
享、享
ま、ま
れ、れ
た、た
元、元
二、二
十、十
文、文
字、字
一、一
十、十
字、字
は、は
一、一
年、年

寺下伊豆
伊豆守
の五十一
像一軸
、歳の
、と
、き
、に
、画
、か
、れ
、た
、と

明以前は
和宗は本
二（二）堂
、（、）前
、（、）に
、（、）五
、（、）建
、（、）つ
、（、）て
、（、）いた
、（、）ら
、（、）れた
、（、）銘
、（、）が





寺曆による第四世
観心無常和尚禪師。
享保十八癸丑（一七三三）年正月十六日
寂



寺曆による第五世
再中興・応住即心和尚禪師。
享保十八癸丑（一七三三）年二月十六日
寂



寺曆による第六世
正峯慧従和尚禪師。
寛延四辛未（一七五二）年五月二十日
寂



寺曆による第七世
湘巖東湖和尚禪師。
寛保二壬戌（一七四二）年九月
日時不明
寂



寺曆による第八世
実応素朴和尚禪師。
寛政二庚戌（一七九〇）年十月
日時不明
寂



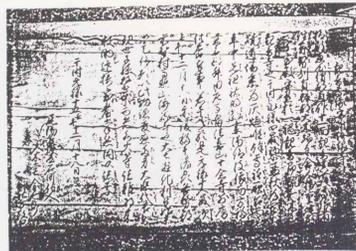
寺曆による第九世
玉圓俊光尼和尚禪師。
寂年月日不明



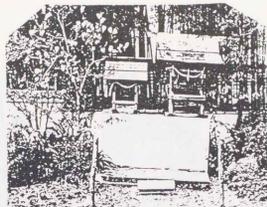
寺曆による第十世
真応泉龍尼和尚禪師。
寂年月日不明



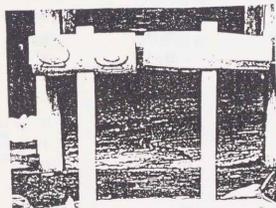
寺曆による第十一世
天山梅芳尼和尚禪師。
寂年月日不明



財第 一
 天十昭 一
 夢三枕 二
 立十立 三
 年九た 四
 九たれ 五
 五弁 六
 財 七
 天 八
 秋 九
 八の 一〇
 寄 一〇
 が 一〇
 れ 一〇
 の 一〇
 せ 一〇
 の 一〇
 秀 一〇
 て 一〇
 近 一〇
 む 一〇
 夜 一〇
 寄 一〇
 が 一〇
 れ 一〇
 の 一〇
 せ 一〇
 の 一〇
 秀 一〇
 て 一〇
 近 一〇
 む 一〇
 夜 一〇



寺領内社に安置
 とされ明神(左)
 納徳神木に
 正徳五年の
 元禄十二年
 の本記名



寺領内社に安置
 とされ明神(左)
 納徳神木に
 正徳五年の
 元禄十二年
 の本記名

寺

宇

五

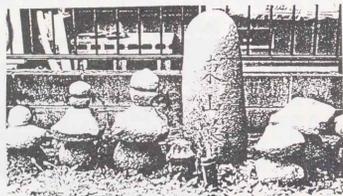


昭秀寺
 和藏暦
 全無一
 一尼の
 一和十
 一尚二
 一九二
 五世
 六世
 二一
 年十
 日

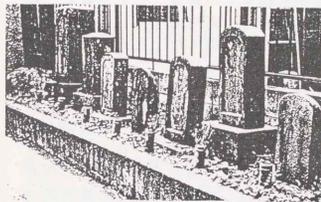
寂



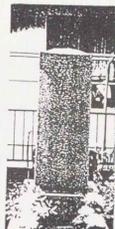
その法蔵寺山門より西に二百メ
 ーの片隅に建てられた西市場農協
 支所離れ
 更木陣屋跡だと伝えられている
 史跡支柱が



「無名戦死者の墓」
 明治時代になって、各務用水の開通に
 あたり、古くから供養されてきた墓
 田の中に寺で供養されてきた墓を
 集めて、伝説によつて無名戦死者の
 治めていた和佐木氏へ無名戦死者の
 といわれた。尚談木氏へ無名戦死者の
 と云はれた。詳しいことは墓源を



「寺正の旗本墓」
 徳山氏の家原の編入され、
 と山家康を治めた徳山氏陣屋
 徳山氏を治めた徳山氏陣屋
 法蔵寺の徳山氏を治めた徳山氏
 には徳山氏を治めた徳山氏
 維新のお寺の徳山氏を治めた徳山氏
 妻新お寺の徳山氏を治めた徳山氏



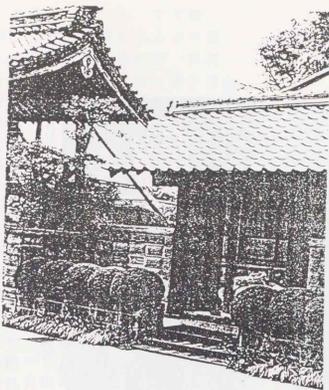
昭和第十道三
 和耀十道三
 九法代
 師
 一九四四
 年

寂

大釈第十信二
 正耀十信二
 五法代
 師
 一九二六
 年

寂

白井山覺王寺



■ 各務原市那加前野町三ノ八
 北へ徒歩五分
 TEL 0583(82)3336
 バス野畑町下車



現場見取図

住職 宗山派
 開基 山派
 開山 宗山派
 並びに諸仏

浄土宗 賢了法師 (承応三年「一六五四年」天台宗の末寺と創立す)
 阿彌陀如来。運如上人。聖德太子。七高僧。(製作者等不詳)
 親鸞聖人。來。(製作者不詳。製作年、一七二五年頃)

歴代住職 (法名)

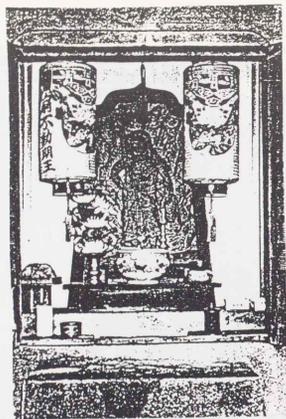
一開	世山	積道	寂法師	天和三年 享保十三年	(一六八三) (一七二五)	寂寂
二	世	積俊	貞法師	享保十九年	改宗の第一世なり。	寂寂
三	世	積仰	輪法師	天明九年	七五四年	寂寂
四	世	積楚	應法師	天明八年	七八年	寂寂
五	世	積義	教法師	文政四年	八〇年	寂寂
六	世	積義	法法師	文政四年	八三〇年	寂寂
七	世	積義	隨法師	安政四年	八三〇年	寂寂
八	世	積信	誠法師	明治四年	八五〇年	寂寂
九	世	積義	院法師	昭和四十七年	九〇八年	寂寂
十	世	專正	院法師	昭和四十七年	九〇八年	寂寂
十一	世	平	鳴賢了法師	昭和三十七年	九二七年	寂寂
十二	世	平	鳴賢了法師	昭和三十七年	九二七年	寂寂

寺守

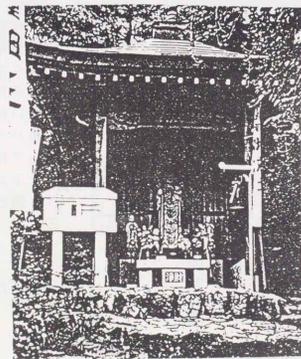
★ ★ ★ 俱舍論三界五趣之図。(寺伝では創立當時)
 ★ ★ ★ 真筆親鸞聖人六字名号。(天文四「末」一七三九)年春の銘)
 ★ ★ ★ 聖徳太子絵画像。(享保十三「庚申」一七二八)年、願主・俊貞の銘)

由緒

一 覺王寺は承応三(一六五四)年當時、天台宗の僧であつた道徹が、この美濃の地に
 は多くの寺院を開創と云われている。天台宗の聖人の布教によつて、美濃の地で
 その改宗第一世は、天台宗第五世に当る釈俊黙法師である。(一七二五)年と記録する。



不動明王像



子育水子・供養地蔵

歴代住職の墓碑

法相宗で、墓は山内には無い。

★不動明王節分会（節分の日）
（年中行事）

★地蔵尊縁日（四月二十四日）

て拝客が訪れている。昭和五十年代に入ると、寺内には子育て地蔵尊も新たに建立され
いて、水子の供養も行われている。

二初 歴代住職
代 島田壮英律師
島田昌胤（現住職）

昭和二十二年（一九四二）

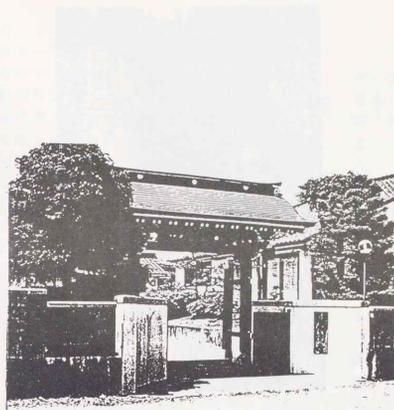
寂

昭和初年、新境川放水路堀工事係に携わっていた請負い師の清水力と松氏（故人）は、
たて清川の水難工事故心を折った清地、関祠らから分身の野受ける那加と、内各事掘削する新
事破片な磐石が除工事をする区にハッパを十一年度身渡線をつけて架かす掛けるといた、怪我が続ひ散工
た九三〇年明王故を安置したいと願った。昭五年（一
心清三不動王を安置したいと願った。昭五年（一
そ一誰かおんがの夢は立たいのただ動かさな
住んは清かその願うがは現住いたのただ動かさな
の職ては二水おんがの夢は立たいのただ動かさな
不別動人院の末寺でもあ
卓別院の末寺でもあ

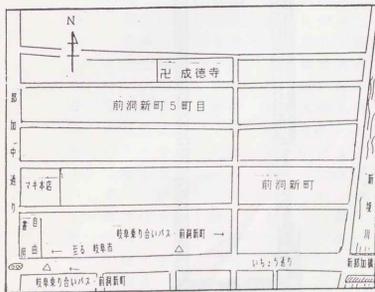
諸行山成徳寺

(じょうとく)

■ 各務原市那加前洞新町五ノ一九ノ一
 北岐乗合バス前洞新町下車
 T E L 0583(八九)2020



成徳寺



現場見取図

宗住職 久保川信海
 開山 日蓮上人
 本山 日達上人
 並びに諸佛 日達上人書写十界互具(めんぐ)曼陀羅

久保川信海
 日蓮正宗(しょうしゅう)
 日達上人(総本山第六十六世)
 日達上人書写十界互具(めんぐ)曼陀羅

歴代和尚

初代 久保川信海住職(現住)

寺守 安玉

*宗祖大聖人御影(だいしょうにんみえい)。(日蓮聖人)

由緒 (沿革)

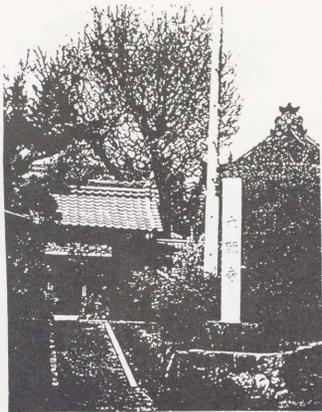
当山は昭和五十三(一九七八)年十二月六日に、日蓮大聖人の七百遠(おん)忌記年の自業として報恩感謝のため、静岡県富士大石(しき)寺より分山に至ったもので、本山の歴史を継ぐが、当地での歴史として新しい。

縁

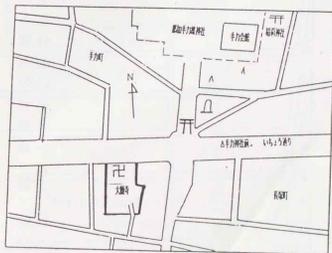
★★ 毎月十三日(年中行事)
 毎年十月に(宗祖大聖人報恩講・おんえ)式。

実静山大願寺

■各務原市那加長塚町一の一二七
TEL・0583(八二二)一六六八
岐阜乗り合いバス手力雄神社前下車南入り徒歩三分



大願寺



現場見取図

住職 宗派 開山 開基 本尊 並に諸佛

河野博雲 ……(平成八年八月・死去・後任住職、不詳)

浄土真宗(本願寺派)
浄誓和尚(慶長年間)

阿弥陀如来

歴代住職

※大願寺についても他の那加地区内の寺院と同様に、各務原市の記録として列記すべきであったが、調査不能のため不記載とする。
以後、状況が変われば資料として保存も然るべきと考えるが、現在は未定。
せつかく歴史のある寺院ではあるが、歴代住職等についても前記状況により空白とする。
(編集者・小野木)

……博雲住職は聞き伝えによると、平成八年八月末、他界という……

由緒

公の資料によると、当寺は親鸞の弟子正慶が、尾張の国羽栗郡久野庄の飛保郷に建てた寺であったが、慶長年間になって、本願寺本山が東西に分裂の際、時の領主が、東本願寺の末寺にしようと思論んだものを嫌って、寺の第十二代住職であった浄誓和尚が、尾張を退去して現在の地に移り、この地に創立したものと伝えられている。
郡上郡初音村の安楽寺や石原村の明願寺は、大願寺の末寺だと云ういい伝えがあるが、詳細は不明である。

歴代住職碑

……前記理由により調査不能、不記載

以上

各務原市図書館
11484687



5
0